二〇一一年度　入学試験問題

文学部A方式Ⅰ日程・経営学部A方式Ⅰ日程・人間環境学部A方式・GIS（グローバル教養学部）A方式

二限　国　語　（60分）

〈注意事項〉

一　試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。

二　解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

三　志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。

四　マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

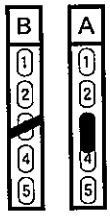
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること（万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと）。

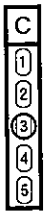
一　記入例　解答を3にマークする場合。

㈠　正しいマークの例

㈡　悪いマークの例



枠外にはみださないこと。



○でかこまないこと。

二　解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三　解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四　問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

◇M9(151—185)

〔一〕 つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの各文のカタカナを漢字に直して、解答欄に記せ。

1 一晩中、議論のオウシュウが続いた。

2 地元の信用金庫がA銀行のサンカに入る。

3 病が峠を越し、ショウコウ状態を保っている。

4 部員のフショウジで監督が辞任する。

問二 つぎの四字熟語の意味として正しいものをそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

1 快刀乱麻

ア 多くの悪人を一度に退治すること。

イ 多くの武器が無造作に置かれていること。

ウ もつれた物事をあざやかに処理すること。

エ 困難な状況にただ一人で立ち向かうこと。

オ 多くの人々の争いを瞬時に止めさせること。

2 右顧左眄

ア 周囲の人々から大いに信頼されること。

イ 右にも左にも尊敬すべき人が控えていること。

ウ 大勢の先輩から多くの指導を受けること。

エ 人の評価や思惑を気にしてためらうこと。

オ 高山の頂上のように見晴らしのよいこと。

3　明鏡止水

ア　心の平静を乱すものがなく、落ち着いた境地のこと。

イ　すべてのものを見通せる透徹した目のこと。

ウ　学問に励み、多くの書物をそらんじること。

エ　世の中の無常を悟り、仏道に専心する心のこと。

オ　静かな池の水面のように、すべてを映し出すこと。

問三　つぎの作家の作品名として正しいものをそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

1　森鷗外

ア　戯作三昧　　イ　高野聖　　ウ　破戒　　エ　明暗　　オ　ヰタ・セクスアリス

2　志賀直哉

ア　或る女　　イ　恩讐の彼方に　　ウ　小僧の神様　　エ　濹東綺譚　　オ　友情

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

今から百年あまり前にロシアと行った戦争は、ふつう日露戦争と呼ばれる。当時から、新聞や雑誌などではそう呼ばれたが、「正露丸」という言葉が今でも残っているように、征露の役（えき）などと称されることもあった。しかし、戦争が終わってからは、「明治三十七八年戦役」が正式呼称となった。たとえば、国定歴史教科書では昭和十八年（一九四三）に「日露戦役」と書き換えられるまで、この言葉が使われている。

「日清」や「日露」のように戦争当事国を並べるのは、おそらく欧米の影響を受けたやり方ではないか。日本では「源平」という例もあるが、「承久の乱」のように元号を使うか、「湊川の戦」のように場所で表すか、あるいは「元寇」のように相手国のみをいうやり方で、戦争に名がつけられた。そう呼ばれるまでには、さまざまないきさつがあっただろうが、少くとも明治期の日本ではそれがふつうの用法だった。

「戦争」という言葉は、近代になってから同時代の戦いの口語的な言い方として広まったようである。改まった表現をする時は、明治以前については「役」や「変」などが、明治以降の対外戦争には「戦役」と戦役に準じる「事変」が使われていた。

「明治三十七八年戦役」とは、こうした命名法に則った呼び方である。しかし、公式の場以外ではほとんど使われず、ふつうは「日露」の下に「戦役」「戦争」「の戦」「の役」などをつけるやり方で呼ばれていた。

①これに比べると、「大東亜戦争」は画期的な戦争だった。開戦と同時に、政府がわざわざこう命名したのである。「満洲事変」や「支那事変」なども、戦いが始まるとそう呼ばれたが、それまでの命名法にもとづいている。これに対して、「大東亜戦争」の「大東亜」は地域をさすのではなく、「大東亜新秩序建設」という戦争目的を意味すると説明された。しかも、明治期の感覚では正式呼称に使うことなど考えられない「戦争」を、史上初めて採用している。開戦の詔書は依然として難解な漢語をちりばめた文語体で書かれたが、呼称については、文語の世界が急速にすたれた昭和時代の言語感覚が反映したのだろう。

しかし、戦争の敗北後にやってきた占領軍は、「大東亜戦争」を禁止し、「太平洋戦争」と呼び変えさせた。「太平洋戦争」とい

う呼称は、海軍が提唱したことがあるというが、一般に使われなかったのだから、敗戦後の呼び方と見なして良い。この事後的な呼称は、かつて日本政府自身が命名した「明治三十七八年戦役」の場合よりも、はるかに広く受け容れられた。アメリカに敗北したことに、最も強烈な衝撃を受けたために、この言葉が定着したのである。

しかし、戦中期にさかのぼれば、日本人は「[A]」ではなく「[B]」を戦っていた。「[C]」は、彼らの内側へ入ることを阻み、外から見させようとする言葉である。他方で、「[D]」という呼称を忌避する意識は、戦後日本の価値観を探る上で大切な手がかりとなる。

以上は、みな日本からの見方である。中国は「抗日戦争」と呼ぶし、アメリカでは、第二次世界大戦の太平洋戦線であり、「太平洋戦争」だけを独立した戦争とは見ない。しかし、日本では「抗日戦争」は使えないし、「太平洋戦争」を廃して「第二次世界大戦」で統一すべきだといっても、受け容れられないだろう。

Ⅹ このように、人は自分が属する時代なり国なりの価値観に従って、戦争を見ているだけであり、客観的に正しい戦争呼称はどこにもない。逆に、そうだからこそ勝手な命名はできず、時代や国が選んだ名を尊重すべきではないか。

研究者の中には、自分の認識が一番正しいと錯覚し、新しい呼称をつけたがる者がいる。②例えば、最近「アジア太平洋戦争」という用語に置き換えようとする動きがあるが、「太平洋戦争」という呼び方の亜流に過ぎない。〔a〕アジアとの関係を重視するならば、研究上は「大東亜戦争」という呼称でよいだろう。「十*五年戦争」も、清との戦争に始まる五十年戦争だ、いや盧溝橋事件からの八年戦争だという区分を凌ぐ決定的な根拠はない。〔b〕

大切なのは、③戦争の客観的な評価など誰にもできないと自覚することだろう。そうすれば、この得体の知れない営みについて、直接に真相解明を試みるよりも、それぞれの国や勢力がどんなつもりでどう関わり、さらにどう評価したかをたどる方が、大切になってくるだろう。歴史研究者が、新しい呼称をつけ加えることは、こうした歴史理解をかえって邪魔する危うさをともなう。ちなみに、歴史学者は「〇〇体制」といった造語を好むが、そのようなレッテル貼りも、これと同じ危険をはらんでいる。

Y 言葉は魔物である。いったん名前がつけられると、その名前が実体を持って一人歩きを始め、人々の意識を支配するのである。その言葉も、ある時代に広く共有されるほどの力を持つならば、歴史研究の大切な材料になるが、研究者の観念を支配する程度の用語ならば、ない方がましだと私は思う。

「大東亜戦争」と「太平洋戦争」とは、互いに相容れない考え方を含んでいる。〔c〕その対立は、新しい用語を作っても解消しないだろう。なぜなら、前者は戦中日本の、後者は戦後日本のとらえ方を代表しているからだ。その歴史の重みを受け継ぐことができるほどの言葉が、存在するはずはない。歴史研究者はこの二つの言葉を前にして、自分が正しいと思う方を自由に選ぶのではなく、④研究しようとする時代が選んだ呼び方に従うしかないのではないか。

たとえば「支那派遣軍」*や「大東亜会議」*という言葉は、当時の日本が命名した固有名詞とみなされ、特に言い換えられない。〔d〕同じように、戦争の呼称も、それぞれの時代が用いた固有名詞と考えられないだろうか。そうだとすると、戦中期を考察する場合には「大東亜戦争」であり、戦後期を検討するならば「太平洋戦争」となる。ここで論じる余裕はないが、同時代の「支那事変」、戦後の「日華事変」・「日中戦争」という呼び方にも、同様のことがいえる。〔e〕

もちろん、同じ言葉でも、時代の推移とともに意味合いが変わってゆく。「大東亜」は、かつては正義だったが、今はそうではない。〔f〕しかし、そこに生じる違和感を、当たり障りのない現代語に置き換えて覆ってしまうのではなく、そのまま自分の中に抱えつづけてゆくのが、歴史と向き合うということではないか。歴史研究者に「命名権」はないと考えるゆえんである。

（山室建徳「戦争の命名権」より。文章を一部改変した）

【注】 *十五年戦争　満洲事変から昭和二十年（一九四五）の日中戦争・太平洋戦争終結までの戦争状態の総称。

*支那派遣軍　昭和十四年（一九三九）設置の支那派遣軍総司令部に統轄された、在中国の日本陸軍全部隊。中国戦域で中国軍と戦い、占領地確保にあたった。

＊大東亜会議　昭和十八年（一九四三）、大東亜諸国家結集の強化と戦争完遂を目指して開かれた会議。日本の影響下にあるアジア諸国の代表を招請し、東京で開かれた。

問一　傍線部①「これに比べると、「大東亜戦争」は画期的な戦争だった」とあるが、筆者がそのように述べているのはなぜか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　「日清」や「日露」のように、戦争当事国を並べるのが当時の戦争の正式な命名法であったのに、「大東亜戦争」は国名も地域名も付さない戦争の呼称であったから。

イ　戦争当事国や紛争地域が限られていたこれまでの戦争に対して、「大東亜新秩序建設」という戦争目的を標榜する「大東亜戦争」は、戦争の新しいあり方を生み出したから。

ウ　正式呼称の決定時期や命名法に注目すると、「大東亜戦争」は日本政府が初めて戦争の呼称を強く意識し、それを有効に機能させようとした戦争だと考えられるから。

エ　それまで日本政府は戦争の正式呼称を定めることには消極的であったが、「大東亜戦争」では戦争目的を示すとともに、「戦争」の語を取り入れた名称を開戦時に決定したから。

オ　戦争目的や「戦争」の語が取り入れられた「大東亜戦争」という呼称には、「事変」や「戦役」といった難解な漢語へのなじみが薄れた昭和の言語感覚が如実に表れているから。

問二　空欄 A B C D に入る語の組み合わせとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　A　大東亜戦争　B　太平洋戦争　C　太平洋戦争　D　大東亜戦争
イ　A　大東亜戦争　B　太平洋戦争　C　大東亜戦争　D　太平洋戦争
ウ　A　大東亜戦争　B　太平洋戦争　C　太平洋戦争　D　太平洋戦争
エ　A　大東亜戦争　B　太平洋戦争　C　大東亜戦争　D　大東亜戦争
オ　A　太平洋戦争　B　大東亜戦争　C　太平洋戦争　D　大東亜戦争
カ　A　太平洋戦争　B　大東亜戦争　C　大東亜戦争　D　太平洋戦争
キ　A　太平洋戦争　B　大東亜戦争　C　太平洋戦争　D　太平洋戦争
ク　A　太平洋戦争　B　大東亜戦争　C　大東亜戦争　D　大東亜戦争

問三　右の文章における段落 X Y の役割の説明として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　これまで述べてきた事例を集約して、筆者の主張を初めて明確に述べた段落である。
イ　これまで述べてきた内容を一旦まとめ、独自の視点から反論を試みた段落である。
ウ　直前の段落における具体例の集約を受けて、再び問題提起を行った段落である。
エ　直前の段落の論点を広い視野でとらえ、その問題性を明らかにした段落である。
オ　次段落で提示する主張を導き出すために、具体的な例証を行った段落である。
カ　次段落の主張を印象づけるために、それとは反対の事例を掲出した段落である。

問四　傍線部②「例えば、最近「アジア太平洋戦争」という用語に置き換えようとする動きがあるが、「太平洋戦争」という呼び方の亜流に過ぎない」とあるが、筆者がそのように指摘しているのはなぜか。その理由を「アジア太平洋戦争」は」で始まるかたちで三十字以上、四十字以内で解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問五　傍線部③「戦争の客観的な評価など誰にもできない」とあるが、筆者がそのように考えているのはなぜか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　過去の戦争に対して、現代人の立場から事実を解明することは困難だから。
イ　戦争とは、その期間の認定から議論が分かれてしまうほど、複雑なものだから。
ウ　戦争に対する評価という行為は、特定の立場からの認識でなされるものだから。
エ　戦争をめぐる時代や国ごとの多様な価値観を理解することは、極めて難しいから。
オ　戦争の客観的な評価は、客観的に付された戦争呼称をもとにして初めて可能になるから。

問六　傍線部④「研究しようとする時代が選んだ呼び方に従う」とあるが、研究者は何のためにそのような姿勢をとる必要があると筆者は考えているのか。「～ため。」と結ぶかたちで、本文中よりその答えに相当する部分を四十字以内で抜き出し、最初と最後の五文字を記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問七　右の文章につぎの一文を入れるとしたらどこが適切か。本文中の〔a〕～〔f〕の中から最も適切な箇所を選び、解答欄の記号をマークせよ。

現代日本社会の一員としては、この言葉を使うのに抵抗を感ずるかもしれない。

〔三〕 つぎのA・Bの文章を読んで、後の問いに答えよ。

A　常州の或る山寺に、遁世の上人ありけり。万の修行者の集まり、中に或る僧申しけるは、「①法師は生れてよりこの方、すべて腹立て候はず」と云ふ。この上人学生なる故に、仏法の道理を以て信ぜず。「凡夫、貪瞋痴*の三毒あり。聖者にて御座さば申すに及ばず。凡夫として、すべて腹立たぬ人はなき事也。たとひうすきこきこそあれ、［　a　］三毒なからむ」と云へば、「すべて聊かも腹立せず」と云ふを、猶信ぜずして、「実ともおぼえず。御坊の虚言と覚ゆる」と云はれて、「たたぬと云はば、②たたぬにてこそあらめ。かくのたまふべきか」とて、貌をあかめてしかりけり。

B　和州の或る山寺に、小法師ありけり。事にふれて、をこがましかりけり。或る時、水船*の上に立ちはだかりて、よばり*をまりければ、坊主、「いかにあやつは、水船にゆばりをばし入るるぞ。不思議なり」と、制しければ、「［　a　］水船には、まり入れ候ふべき。上をこそまり越し候へ」とぞ、返事したりける。

同国にある小法師、流れにそひて河を下りけるに、主の僧はすこしさき立ちたるが、河によりて水をすくひて呑まむとするを、「御坊御坊、しばし水［　b　］なり候ひ［　c　］」と云ふ。さてしばしありて、「今はなり候へ」と云ひけり。主の僧、「なにとして、かく云つるに」と問へば、「水なり候はむとしつる時、河の上に、ゆばりをまり入れて候ひつるが、小法師がゆばりの、その程を流し候ふらむとおぼえつれば、制しまゐらせ候ひつ。③さて今はながれ過ぎぬらむと思ひて、なり候へと申し候ひつる」とぞ云ひける。④志はさもとおぼゆれども、ことのてい便なくこそ。

（『沙石集』より）

【注】
＊貪瞋痴　仏道の妨げとなる貪欲と瞋恚（怒り）と愚痴（愚かなこと）。
＊水船　飲料水を入れる水槽。
＊よばりをまりければ　小用を足したので。「よばり」は「ゆばり」の訛り。

問一　傍線部①「法師」は誰を指すか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　遁世の上人　　イ　万の修行者　　ウ　或る僧　　エ　学生　　オ　聖者

問二　傍線部②「にてこそあらめ」を単語に分けた場合、その品詞の組み合わせとして正しいものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　助動詞＋接続助詞＋係助詞＋動詞＋助動詞
イ　助動詞＋接続助詞＋係助詞＋動詞＋助動詞＋助動詞
ウ　格助詞＋接続助詞＋係助詞＋動詞＋助動詞
エ　格助詞＋接続助詞＋係助詞＋動詞＋助動詞＋助動詞
オ　格助詞＋係助詞＋動詞＋助動詞
カ　格助詞＋係助詞＋動詞＋助動詞＋助動詞

問三　Aの話のおかしみはどこにあるか。つぎの空欄に入るよう二十五字以内にまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点も一字と数える。

「法師」が［　　］ところ。

問四　空欄［a］に共通して入る語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　いかばかり　　イ　いかにとして　　ウ　いかにも　　エ　いでや　　オ　いかでか

問五　空欄 b ・ c に入る語句として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　つる　　イ　な　　ウ　ぬ　　エ　そ　　オ　とて
カ　ける　　キ　え　　ク　の　　ケ　をか　　コ　をや

問六　傍線部③「今はながれ過ぎぬらむ」の「らむ」とは異なる意味で用いられている「らむ」の用例をつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　雪の内に春はきにけり鶯のこほれるなみだ今やとくらむ
イ　山里は道もやみえずなりぬらむ紅葉とともに雪のふりぬる
ウ　吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ
エ　かはづなく神南備河にかげみえて今かさくらむ山ぶきの花
オ　吉野河岸の山ぶきさきにけり峰の桜は散りはてぬらむ

問七　傍線部④「志はさもとおぼゆれども、ことのてい便なくこそ」の現代語訳として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　師匠を思う心構えはもっともと思われるが、その言動は感心できないことである。
イ　師匠を思う心構えはもっともと思われるが、その気遣いが理解されなかったのは不憫なことである。
ウ　師匠を思う心構えはもっともと思われるが、他に方法がなかったのは残念なことである。
エ　弟子としての心構えはいかがかと思われるが、ことの成り行きとして仕方のないことである。
オ　弟子としての心構えはいかがかと思われるが、師匠に対する気遣いは感心なことである。
カ　弟子としての心構えはいかがかと思われるが、事実を正直に伝えたのは素晴らしいことである。

問八　『沙石集』の編者として正しいものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　西行　　イ　兼好　　ウ　慈円　　エ　無住　　オ　宗鑑

つぎの問題〔四〕は、文学部を志望する受験者のみ解答せよ。

〔四〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

楚*人ニ有リ担フ山*鶏ヲ者。路人問ヒテ曰ハク、何ノ鳥ソヤト也。担フ者欺キテ之ヲ曰ハク、鳳*凰也。路人曰ハク、我聞クコトヲ有ルヲ鳳凰ニ久シ矣。今真ニ見ルヲ之ヲ。汝売ルヲ之ヲ乎。曰ハク、然リト。[A]酬ユルモニ千金ヲ、弗レ与ヘ請フニ加フルヲ倍ヲ、[A]与フレ之ヲ。①方将献楚王、経テ*宿ヲ而鳥死ス。路人不シテ*遑アラ惜シムニ其ノ金ヲ、惟ダ恨ムレ不ルヲ得ニ以テ献ズルヲ耳。国人伝ヘレ之ヲ、咸ミな以②為真鳳而貴、③宜欲献之。遂ニ聞ユニ於楚王ニ。王感ジニ其ノ欲スルニ献ズレ己ニ也、④召而厚賜レ之、過グルニ買フレ鳳ヲ之直ニ十倍セリ*矣。

（『笑林』より）

【注】 *楚人　今の湖北省あたりに住む人。
*山鶏　鳥の名。雉の類。
*鳳凰　太平の世に現れるという想像上のめでたい鳥。
*経宿　一晩経過して。翌朝。
*遑　「暇」に同じ。
*直　「値」に同じ。

問一　空欄 A に共通して入る語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　乃　　イ　故　　ウ　又　　エ　且　　オ　已

問二　傍線部①「方将献楚王」の書き下し文として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　方めて将に楚王に献ずるも
イ　将た楚王に献ずるに方りて
ウ　方に将に楚王に献ぜんとするも
エ　方に楚王に献ずるを将ってするも
オ　将を方べて楚王に献じ

問三　傍線部②「為」と同じ意味の「為」を含む文をつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　士　為レ知二己者一死。
イ　朝　廷　以二彼　丈　夫一為レ忠。
ウ　小　人　閑　居　為二不　善一。
エ　父　母　宗　族　皆　為二戮　没一。
オ　身　為二宋　国　笑一。

問四　傍線部③「宜欲献之」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　ちょうど、本物の鳳凰を献上したいと思っていたのだ。
イ　本物の鳳凰だったから献上しようとしたのももっともだ。
ウ　本物の鳳凰を献上したいと思うのは、よいことだった。
エ　当然のことながら、本物の鳳凰を献上すべきだった。
オ　本物の鳳凰なら、死んでいても献上したほうがよかった。

問五　傍線部④「召而厚賜之」とあるが、楚王はなぜそうしたのか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　大金を惜しいと思わず、王に鳳凰を献上できなかったことを残念がった気持ちに打たれたから。
イ　鳳凰が死んでもあきらめずに献上しようとしたので、その一途な気持ちに感動したから。
ウ　鳳凰の値段を倍につり上げられても、ためらうことなく大金を支払ったことに感激したから。
エ　鳳凰の献上によって、王の治世が素晴らしいことを国の人々に分からせてくれたから。
オ　手厚い褒美を与えることで、鳥が本物の鳳凰だったと国の人々に証明したかったから。

つぎの問題〔五〕は、経営学部・人間環境学部・GIS（グローバル教養学部）を志望する受験者のみ解答せよ。

〔五〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

「多様性」(diversity)という語には、なにかしら「よいもの」であるという語感がつきまとっているようである。生物、文化、言語から、ジェンダー、さらには教育にいたるまでの領域において多様性ということが語られるとき、それらは保護(保全)されるべき対象として扱われることがほとんどである。しかし、それはなぜなのだろうか。たとえば言語の場合、外国語学習に苦労した覚えのある身としては、この世界に言語がひとつしかなかったならば、どれほど楽であったであろうと考えることは自然かもしれない。もちろん、このあまりに素朴な発想に対しては、多くの反論が用意されている。ただ問題は、その反論が多種にわたっているというところにある。「多様性の擁護」という点においては共通しているものの、なぜその多様性が擁護されねばならないのかということが主張される理由と根拠そのものが多様なのである。このことは、①多様性への問いが一筋縄ではいかないということを示しているように思われる。

多様性というものを称揚する傾向の代表は、生物多様性(biodiversity)であろう。一九八六年にウォルター・G・ローゼンによって提唱されて以来、この語は、またたくまに流行語として流通しはじめ、一九九二年には国連の主導によって「生物多様性条約」が採択されるなど、現在の環境保護運動の最も基本的なキーワードになっている。しかし、デヴィッド・タカーチが『生物多様性という名の革命』において記しているように、生物多様性の価値の根拠は、科学的なものにとどまらず、政治的、経済的、精神的、美的といった多くの価値領域を横断して主張されている。実際、生物多様性条約においても「生物の多様性が有する②内在的な価値並びに生物の多様性及びその構成要素が有する生態学上、遺伝上、社会上、経済上、科学上、教育上、文化上、レクリエーション上及び芸術上の価値」といった羅列的な表現が用いられている。ここで注意すべきは、それらの多様な価値の根幹に「内在的価値」という語が使用されている点である。内在的価値とは、倫理学では、何か他の価値との

関係において役に立つ手段的な価値と区別された、それ自体に存在する価値のことであり、環境倫理学においては、しばしば人間中心主義と人間非中心主義という対立軸のなかで、「自然の価値」をめぐる議論のキーワードになったものである。ここからわかることは、タカーチも指摘するように、そもそも生物多様性と自然という概念そのものが区別し難いということ、そしてこれはこの概念の本質的な(あるいはこういってよければ科学的な)曖昧さを示しているということである。また、社会生物学者として有名なE・O・ウィルソンが、その科学者としてのキャリアの最終段階に至って、生物多様性の擁護を、人類に生得的に備わった遺伝的素質としての「生物愛」という驚くべき仮説から説明せざるをえなくなったということも、この概念の悩ましさを象徴している好例であろう。

ただ、科学的に曖昧であるからといって直ちに有効ではないということにはならない。むしろこの曖昧さは③実践的な有効性という方向への道を大きく開くものであるのかもしれない。実際、学問的な根拠を追究するあまり原理間の不毛な対立のみが目立った環境倫理学を批判することで誕生した環境プラグマティズム*は、生物多様性の概念をプラグマティックな観点から再考しようとしている。また、生物多様性と言語の多様性という一見して無関係にみえる事柄が、事実問題として密接に関連しているという知見、つまり生物多様性が豊富な地域と言語の多様性が豊かな地域が共通しているという事実は、「生物言語多様性」という言葉すら生み出し、保全言語学という新しい研究領域を飛躍的に発展させる原動力となった。絶滅の危機に瀕している言語を保全するべき根拠は、少なくとも素人にとっては生物種の場合と比較して直観的に理解しやすいとはいえないだろう。世界の人口の九五%以上が、いわゆる大言語の話者である現在、わずか数百名しか話者をもたず、近い将来自然に絶滅する可能性の高い言語を人為的に保全するべき学問的な理由を探すならば、それこそ言語学者という種族に特有の「言語愛」なる怪しげな概念を捏造してみたくなるかもしれない。しかし、それはあくまでその科学的根拠を求めるかぎりのことであって、倫理的価値という実践的目的にとっては、長く科学であろうと欲してきた言語学が、生物学との新しい関係を自らの原動力のひとつとしているということ自体は好ましいことであるのかもしれない。

では、④その倫理的価値とは何なのだろうか。言語の場合を考えるならば、多数者である大言語話者と少数者である絶滅危惧

言語の話者の関係ということが問題となろう。しかも、当然この多数／少数問題は、例外なく政治的、経済的な圧力と関わっている。政治的に特定の言語の使用が強制される場合もあれば、生活上の必要から大言語を自らの第一言語として自発的に選択する場合もあるだろう。この場合、多様性の主張は、つねに少数者の権利保護という側面をもち、このかぎりにおいては少数者のアイデンティティということにつながる問題であるともいえる。「言語権」という言葉も流通しはじめている。（中略）

実は、どれを保護しどれを無視するかという選択の問題は、生物学的な多様性に関しても、以前からどの希少種をどの程度保護するのかという問題として存在していた。しかし生物多様性という新しい単語の出現によって、静的な型としての個々の種の保存ということから、遷移する多様な生態系の保全へという転換がおこり、生物学者たちは「どの種を選ぶのか」という難題から解放された。タカーチは、このことは、生物多様性ということにまつわるわれわれの本質的な無知の自覚を基盤にしているという。文化やジェンダーといった人間のアイデンティティに関わる領域における多様性の保護も、その曖昧さとそれに対する無知の自覚に基づいて、さしあたっては事実として存在している少数者の痛みに耳を傾けることからはじめる必要があるのではないだろうか。

（水谷雅彦「「多様性」ということ」より。文章を一部改変した）

【注】＊環境プラグマティズム　環境問題について、具体的な事象に即して考え、行動することを重視する立場。環境実用主義。

問一　傍線部①「多様性への問いが一筋縄ではいかない」とあるが、その理由の説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　もともと生物に関する概念として生まれた考え方を、文化やジェンダーなど別の領域に応用するのは困難だから。

イ　世の中では良い印象を持たれているものの、その擁護の根拠は様々で、科学的根拠が実は曖昧な新しい概念だから。

ウ　ものごとを世界中で統一化・共通化したほうが便利だという意見に対して、説得力のある反論を示せないから。

エ　専門家の間で合意され、条約にも明記された多様性擁護の倫理的な根拠が、世間に正しく理解されていないから。

オ　多様性概念は、保護して残したい対象を現実的に取捨選択する際にまだ力が弱く、専門家も試行錯誤しているから。

問二　傍線部②「内在的な価値」を別の表現で言い換えるとした場合、最も意味が近いと考えられるものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　共生的な価値　　イ　自発的な価値　　ウ　伝統的な価値　　エ　固有の価値　　オ　希少価値

問三　傍線部③「実践的な有効性」とあるが、本文中に示されたその実例の記述として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　ある地域の希少生物を保護すると、同地の言語の多様性も存続しうることが発見された。

イ　理論研究だけでなく、絶滅危惧言語の保護活動に役立つ「保全言語学」という新たな領域が生まれた。

ウ　保全言語学の分野で、人類生得の「言語愛」という普遍的な行動倫理が新たに提唱された。

エ　言語学が、倫理性に加えて、今まで欠けていた実証的な科学性も兼ね備えるようになった。

オ　言語学が、多数者の圧力を抑止する政治的・経済的な影響力を強く持つようになってきた。

問四　傍線部④「その倫理的価値」について、話者が少ない言語の保護を例にした場合、最も適切な説明をつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　該当する言語の話者がその母語を使い続けられることによって、彼らの誇りや帰属意識が良好に保たれるという価値。

イ　該当する言語を、話者のアイデンティティの核として文明の波から守ることで、昔のままの姿の文化を残せるという価値。

ウ　話者が少ない言語を守ると、結果的にその地域の希少生物の保護にも好影響があるという、共生の模範例としての価値。

エ　どの言語を残すかを取捨選択するのではなく、全ての保存をめざす言語愛の理念が世界に広まるという価値。

オ　話者が少ない言語を守ると、多様性保護の特性によって、その話し手達だけでなく大言語話者にも恩恵が及ぶという価値。

問五　つぎの1～5の文について、筆者が述べていることと合致するものにはAを、合致しないものにはBを、解答欄にそれぞれマークせよ。

1　多様性概念を人々が称揚するのは、根拠の曖昧さを見落とした誤解に基づいており、好ましくない傾向である。

2　生物多様性概念の新しさの一つは、個別の種の保存というより生態系という繋がりの視点で保全を考える点にある。

3　「内在的価値」という考え方は、環境倫理学における「自然の価値」をめぐる議論と重要な結びつきを持つ。

4　言語学者が、生物多様性概念を言語の多様性に応用しようとした試みは、実証的な論拠を欠いて飛躍しすぎた。

5　私達は多様性について本質的に無知であるという自覚を持って、守るべき多様性の保護に臨む必要がある。